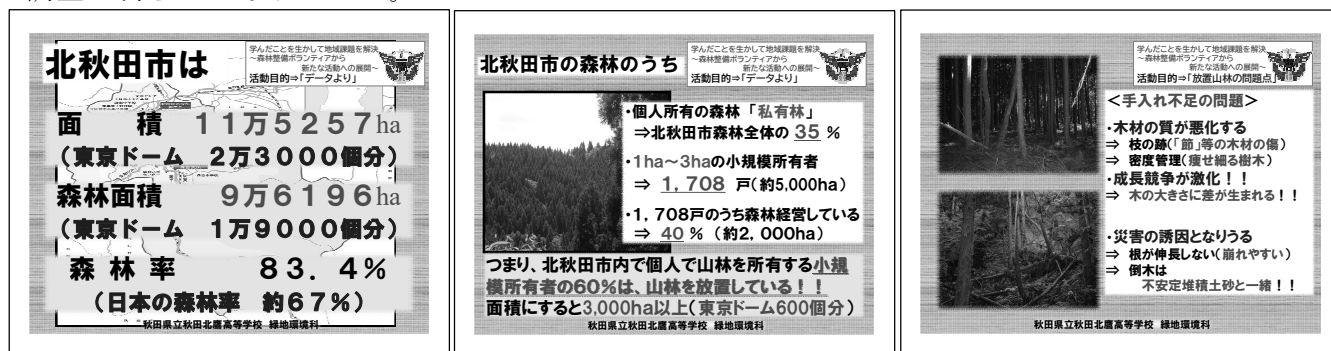


学んだことを生かして地域課題を解決！！ ～ 森林整備ボランティアから新たな活動への展開 ～

秋田県立秋田北鷹高等学校
緑地環境科 3年 ○藤島大智 佐藤秀真 工藤航平
佐藤龍星 藤島健誠 齊藤優來

1 活動目的

私たちが住む北秋田市は、面積11万5257haに対し、森林面積9万6196ha、森林の割合83.4%という多くの資源を抱える地域です。このうち、個人が所有する森林である「私有林」の割合は全体の35%に及び、1haから3ha未満の小規模所有者が1708戸存在します。この1708戸の私有林所有者の中でも、所有者自身が森林を管理し計画的な森林経営を行っている割合は面積比で約40%であり、残りの60%は計画的な森林管理を行っていない、あるいは、森林管理ができない可能性があることが事前調査で明らかになりました。



放置された森林は、木材の質を悪化させ、今後の気象災害により災害を引き起こす可能性が高くなります。こうした木材の質の向上や地域環境保全の視点から、何らかの理由で森林管理ができない所有者が数多く存在する状況を地域が抱える課題ととらえ、自らが学習した森林管理に関する知識と技術を発揮し、地域課題の解決に導くことを目的に、森林整備ボランティアグループ「森林バスターズ」が誕生し「100年先を見据えた森づくり」をテーマに活動を行ってきました。そして、私たちも先輩達の意志を受け継ぎ、「14代目森林バスターズ」として活動することにしました。



2 活動計画

年間の活動計画は表のとおりです。

昨年の1月から新メンバーとしての活動を開始し、地域課題の再確認のための事前調査

と製材作業を冬期間に行い、新年度が始まってから、本格的な活動を行っています。

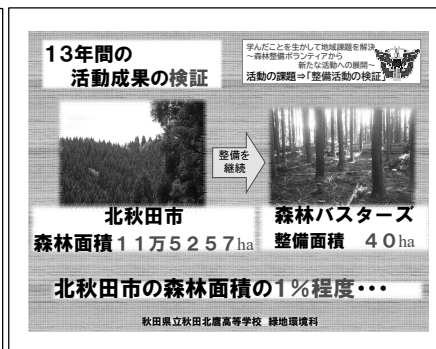
令和5年度年間活動計画		学んだことを生かして地域課題を解決 ～森林整備ボランティアから 新たな活動への展開～ 活動計画⇒「1年間の計画」
月	計 画	
1	森林バスターズメンバー募集	
	水と緑の森づくり税補助金申請	
2	製材作業(木材加工実習)	
3	森林整備基礎知識事前学習	
4	水と緑の森づくり税補助金決定	
	水と緑の森づくり税補助金交付	
5	校地内での下刈り訓練	
	伐倒作業の基本練習	
6	現地踏査・調査	
	山林整備活動	
7	林業事業体委託研修	
8	安全管理講習会への参加	
9	使用機械器具のメンテナンス	
10	広葉樹の伐倒練習	
	広葉樹の伐倒と解体作業	
11	広葉樹の運搬作業	
	演習林製炭実習の準備作業	
12	山林整備活動のまとめと報告	

秋田県立秋田北鷹高等学校 緑地環境科

3 これまでの活動を振り返って

これまでの13年間の活動で、件数で35件、面積は40haを超える森林整備を手がけてきました。整備した森林は、整備前と比較すると林内も明るく、樹木の太さも揃った森林に生まれ変わり、依頼を受けた森林所有者からは多くの感謝の言葉をいただきました。また、10年以上地域環境保全に取り組んできたこの活動は多くの団体から高い評価をいただきました。

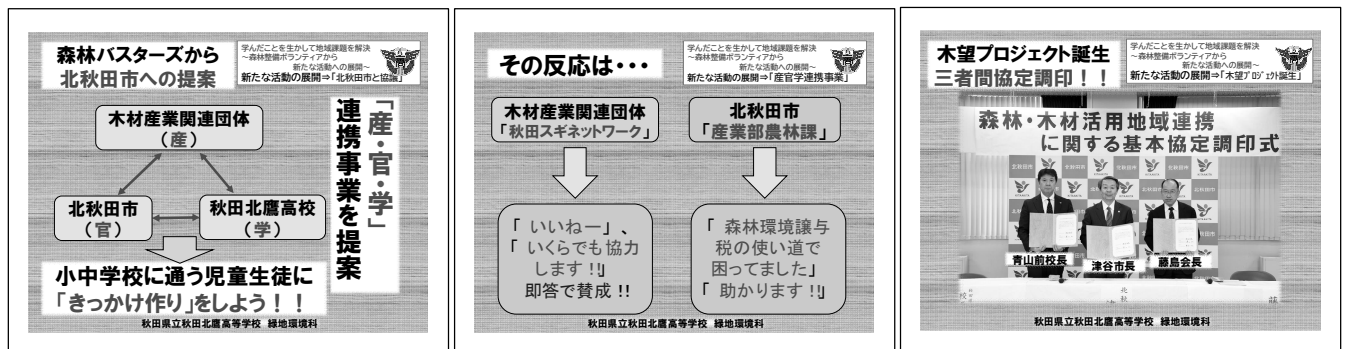
しかし、我々が10年以上取り組んだ実績は、北秋田市の森林面積の1%程度に過ぎず、学んだことを生かして地域貢献はできたものの、地域課題の解決には至っていないと感じました。今の活動に、何か視点を変えた活動も追加していく必要があると話し合いました。そこで出た答えは、多くの北秋田市民に地域環境に興味や関心を持ってもらうための「きっかけ作り」をすることにしました。そして、そのターゲットを地域の小中学校に通う児童生徒に絞り、幼い頃に地域の環境に触れることが、その後の記憶に大きく印象付けされるのではないかと考え活動を展開することにしました。



4 新たな活動の展開

これまで、地域の小学生と、地域の環境学習事業などを行ってきましたが、秋田北鷹高校だけで行うことには限界があり、地域と連携した活動に展開することを考えました。

北秋田市内の小中学生への働きかけとすれば、北秋田市の協力は必須と考え、北秋田市に対し活動趣旨を伝え、協力いただけないか協議しました。秋田北鷹高校、北秋田市、地域の木材産業関連団体と連携した「産・官・学連携事業」を展開し、地域の小中学校に通う児童生徒をターゲットにした、地域の自然や環境に興味関心を持ってもらう活動を展開できないかという相談です。市内の木材産業関連団体「秋田スギネットワーク」はすぐに賛同してくれました。北秋田市も地域資源を活用した事業展開に関心を示してくれました。そして、ここに「森林・木材地域連携事業ワーキンググループ」通称「木望プロジェクト」が誕生し、地域の小学校に入学する新入生全員に、木育活動の一環として、北秋田市の木材を使った記念品を贈呈し、地域の木材や資源、そして地域環境に目を向ける「きっかけ作り」を行うこととしました。



更に、地域の林業関連団体が運営するNPO法人「グリーンメイク」に対し、これまで我々が行っていた植林ボランティア事業に地域の小学生を招いて実施したいという提案も行いました。

また、北秋田市から、地域の中中学生に対し、林業を解りやすく知ってもらうイベント「森のしごと」が開催されるという話を聞き、私たちが行っている森林整備ボランティア事業「森林マスターズ」の活動も発表させていただきました。地域環境保全のために地域の高校生が活動していることを知ってもらいたいことや、将来の林業後継者育成のため、緑地環境科の新入生を確保するための取り組みの一環として、私達の活動の紹介を行いました。



5 活動成果

「木望プロジェクト」では、北秋田市が所有する民有林に対し、私達森林マスターズが間伐を中心とした森林保育作業を行います。伐採した丸太は、地域の森林組合が搬出運搬し学校まで届けます。丸太はその後、緑地環境科の実習活動で製材加工し、秋田スギ

ネットワークが製品のデザインと加工を行う流れで、3年前から活動を行っています。幾多の試作品を作成し、一昨年度、無事に商品第1号となる多目的ブロック「木望ブロック」が完成しました。この「木望ブロック」は、一昨年4月から北秋田市内の小学校に入学した児童全員にプレゼントされています。

NPO法人「グリーンメイク」との伐採跡地への植林ボランティアには、地域の小学5年生約20名が参加し、6月にヤマザクラとクヌギの苗木計350本を植林しました。小学生のグループに私たちが指導者として入り、苗木の植え方や「何故山に木を植えるのか」を説明しながら活動を行いました。

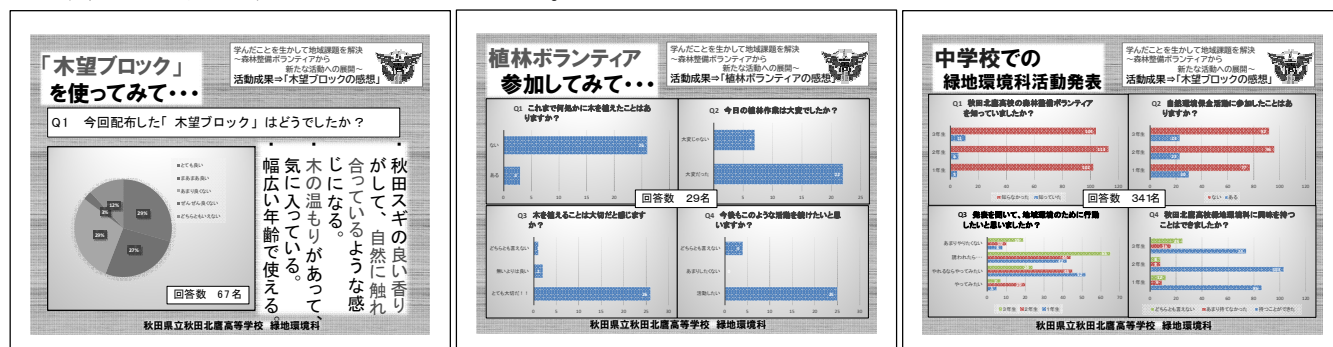
地域の中学校での活動紹介では、多くの中学生から発表後に質問や感想などをいただきました。中学校の先生や生徒も含め、私たちの活動目的や内容の他、緑地環境科が行う後継者育成のための取り組み、地域環境整備の重要性を理解してもらったという手応えを感じました。



こうした全ての活動後には、参加した小中学校の児童生徒にアンケート調査を実施し、地域環境保全の大切さについての意識の変化を探りました。

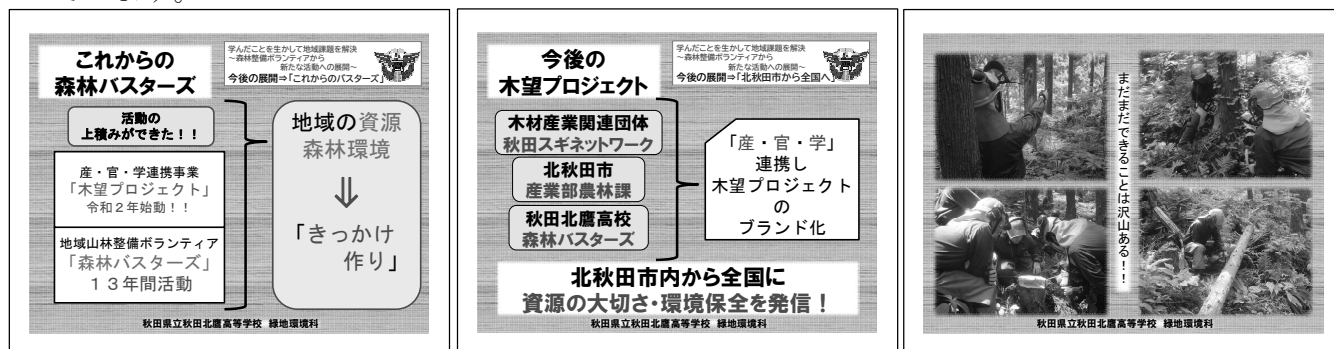
「木望ブロック」を貰った小学校新入生からは、「ブロックに使われている材料の木の感触が気持ちいい」、「木は一人で大きくなるのではなく、人が育てることを知った」など、地域産の木製品に触れることで、木の匂いや温もりを感じてくれる手助けができたと感じています。伐採跡地の植林ボランティアに参加した児童からは、「山に木があることで安心して生活ができる」と、地域環境の保全の重要性を理解してもらうことができました。地域の中学校で行った活動紹介では、「秋田北鷹高校緑地環境科の皆さんが、地域の環境を支えている事に驚いた」や「将来は、自然を相手にした仕事に就きたいと考えているので、緑地環境科に入学できるように頑張りたい」などの感想をいただくことができました。

参加してくれた児童生徒全員に地域環境保全の大切さが伝わったわけではありませんが、人数は少なくても、こうした意識が少しずつ芽生えることに、私たちは大きな一歩を踏み出したと実感することができました。



6 今後の展開

先輩達がこれまで行ってきた地域森林整備ボランティア「森林バスターズ」事業を継続し、森林整備ボランティア活動に更に活動を上乘せすることができました。地域の小中学生に、地域の木材に触れ、地域の資源や森林環境に興味関心を持ってくれる「きっかけ作り」に手応えを感じました。今後もこの活動は「産・官・学」連携で活動していきます。そして、「木望プロジェクト」を一つのブランドとした商品の開発を行い、北秋田市から全国に向けて地域資源の大切さや、地域環境保全に目を向ける活動に展開する計画を進行しています。



先輩たちが作ってくれたこの活動を更に発展し、地域が抱える課題の解決と、自身の知識と技術の習得ができましたが、まだまだできることは沢山有ると考えています。今後も私達は、地域の山林を整備し、その資源の活用を継続しながら、いまある資源をより良い形で後世に伝えるため、この活動を継続し地域課題の解決に取り組んでいきます。森林バスターズの目的でもある「100年先を見据えた森づくりを目指して」。

